補　足

教育 ICT を活用した不登校対策支援経費について
～フレンドリーオンラインの今後の取組～

1　対象者　　熊本市に在住する不登校児童生徒

○令和４年８月３１日時点のフレンドリーオンライン参加登録者

小学校　４９人　　中学校　１６０人　　合計２０９人

※毎月参加希望があるため、参加登録者数は今後も増加がみこまれる。

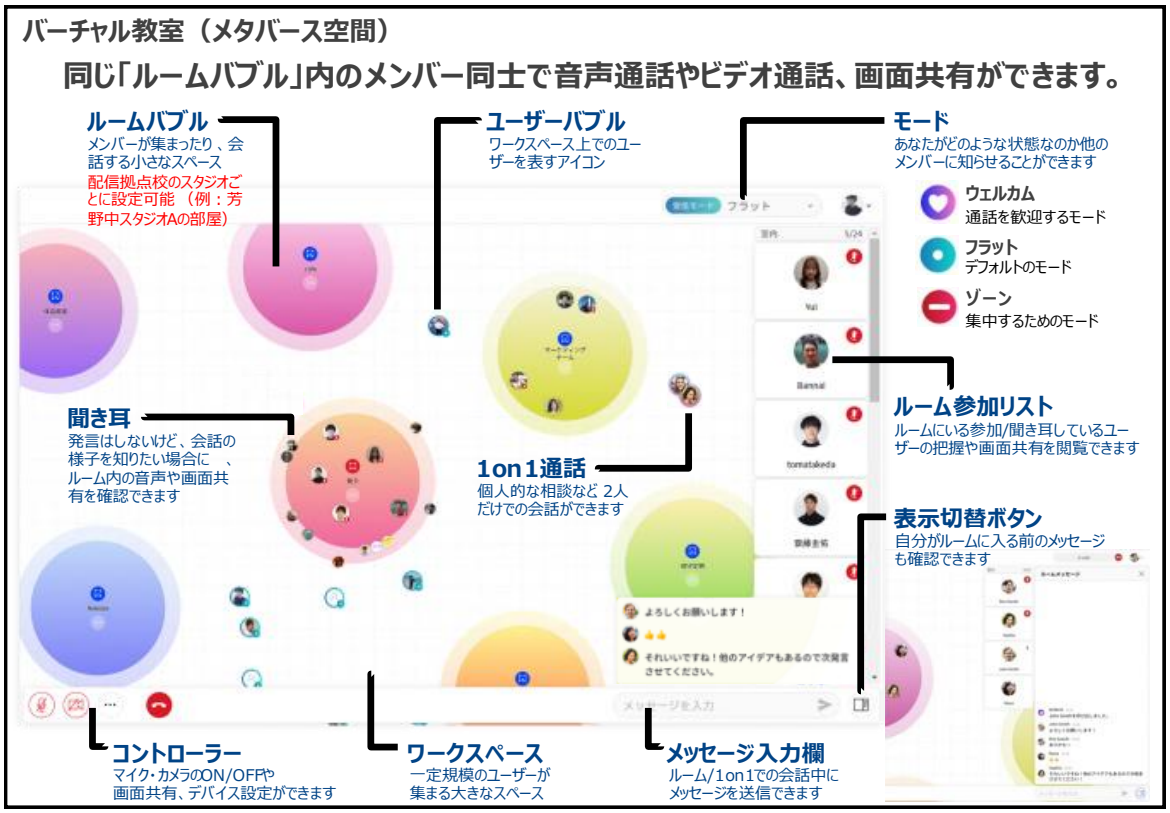
2　これまでの支援に加えた今後の取組（先端技術を活用した実証研究）

○バーチャル教室（メタバース空間）

・参加児童生徒は他の参加者の存在がわからない状況

→参加児童生徒がアバター（アイコン）で参加状況が視覚的にわかる

学習支援担当者がいる空間で児童生徒同士のやり取りが安心して行える。



○RPA（ロボティクス・プロセス・オートメーション）

・児童生徒の参加状況や学習アプリの活用状況を担当教師が個別に手動入力

→複数データを自動で一元管理、データ活用が容易になり、児童生徒の状況をリアルタイムで把握でき、在籍校との情報の共有も円滑になる。

○３Ｄ自由視点映像伝送システム

・動植物園、博物館、美術館等で行うわくわく学習の配信の画面を視聴

→３６０度の空間映像の利用で自分の好きな場所を自由に視聴できる。